

日本在宅 医学 会誌

Vol.19 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言 本学会の今後の方向について	前田 憲志	1	
●原著 肥厚性幽門狭窄症を来し、手術により在宅移行が可能となった18トリソミーの1例	河邊 宏幸	7	
●原著 訪問看護師にとっての対応困難事例の困難要素について:テキストマイニングソフトを用いた個別面接調査の分析結果より	武 ユカリ・小坂 素子・西出 順子・安齋三枝子・金川 治美	11	
●第19回日本在宅医学会大会 大会長講演 世界一の長高齢社会における在宅医療の位置づけ	葛谷 雅文	19	
●特別講演 「超少子高齢社会に向けて私たちは何をすべきかー地方創生と地域包括ケアー」	唐澤 剛	21	
●メインシンポジウム 平原佐斗司, 佐藤美穂子, 亀井 克典, 山中 崇, 茅根 義和, 冲永 壯治, 渡辺 康介, 小島菜保子, 増井 玲子, 井出 訓, 石黒 幸枝, 名越 円, 遠矢純一郎, 大友 宣, ニノ坂保喜, 小笠原文雄, 徳田 英弘, 松尾浩一郎, 松山 哲也, 内藤喜久枝, 加藤久美子, 松本 小牧, 奥村 圭子, 田中久美子, 前田佳予子, 細野 純, 田島 和周, 松山なつむ, 原田奈穂子, 堀田富士子, 増田 英明, 真野 寿雄, 市橋 亮一, 林 伸宇, 小林 利彦, 松本 武浩, 内藤 純子, 井階 友貴, 竹内 公一, 西村 幸, 山腰 伴子, 鈴木 裕介, 館 知也, 野口 義紘, 寺町ひとみ, 高瀬 義昌, 上地小与里, 山中 崇, 袋 秀平, 塚田 邦夫, 熊谷 英子, 熊谷 英子, 日下部明彦, 蘆野 吉和, 野村 秀樹, 前田 恵子, 山崎 摩耶		23	
●パネルディスカッション 金子 満寛, 中橋 聖一, 杉戸 順子, 岡村 紀宏, 坂井 謙介, 北澤 彰浩, レシャード カレッド, 森 清, 北西 史直		117	
●ディベートセッション 小原 章央, 竹内 和彦, 榎本 美紀, 蟹江 治郎		132	
○査読者一覧		137	
日本在宅医学会雑誌投稿規定	138	投稿承諾書	139
連絡票	140	編集後記	141

一般社団法人日本在宅医学会

本学会の今後の方向について

日本在宅医学会 代表理事 前田 憲志

高齢化の進展に伴い、高齢者施設の増加や「在宅医療」「介護」の充実を図る「地域包括ケア」は制度として推進されており、「多くの課題」を抱えながら、全国展開されていることはご承知のとおりであります。また、「一億総活躍社会の構築」という高齢化社会活性化の新たな基本方針が打ち出されており、この様な高齢化対策の変貌に対応すべく、本学会も関連学会との統合を含め、前述の活動の趣旨に適した機構への改組が進められています。即ち、「日本在宅医学会」と「日本在宅医療学会」の2学会が合併し、「日本在宅医療連合学会」が発足します。日本在宅医学会は1999年佐藤智先生の呼びかけで設立され、①在宅医療の学問体系を構築すること、②在宅医療を実施する医師（人材）を養成すること、③在宅医療に関して意見交換の場を提供すること、④国民のQOLに資する活動をするを目標に私たちは活動して参りました。主な会員構成は診療所医師であり、在宅を推進する取り組みを現場から発信してまいりました。一方、日本在宅医療学会は病院医師が中心に1990年発足した在宅癌治療研究会が、2008年日本在宅医療学会と名称を変更し、癌疾患以外にも幅広い分野の在宅医療の研究に取り組んで参りました。日本在宅医療連合学会は病院医師と診療所医師が手を携えて、在宅医療の諸問題に取り組む我が国最大の在宅医療の学術団体となります。

日本在宅医療連合学会の目指す vision は、①在宅で療養するすべての人の尊厳を守り、本人と家族のQOL(人生および生活の質)の向上をはかる、②療養者自らの生き方を尊重し、それを実現するための支援を行う、③質の高い在宅医療の実践を通じて、人生の最終段階を含め、安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献する、④生活やいのちを支えるための叡智を集約し、新しい在宅医学を創造することです。私たちはこの vision を実現するために委員会活動やグループワーキングによる活動を活発に行い、在宅医療のエビデンス構築や診療指針の作成等を成し遂げることを目指します。専門医制度や教育研修活動、これまで取り組んできた研究活動および多学会や団体とのコラボレーションは、更に進展させていく所存です。

この度の日本在宅医学会・日本在宅医療学会の合併に際しまして、役員人事や活動内容につきまして1-2か月毎にミーティングを開催し話し合ってきました。その結果、合併後の理事の数は整理し、少数精鋭でしっかりした活動のできる執行部体制を敷くこととなりました。その為、両学会とも、理事数等の役員数を制限する必要性が生じております。その結果、これまで、本学会のためにご尽力頂いた役員の方の減員を余儀なくされる状況となっています。これまで、ご尽力いただきました先生方のご功績を尊重しつつも、次のステージに飛躍するための産みの苦しみに耐えねばならぬ状況をご賢察賜り、ご理解賜りますよう心からお願い申し上げます。

新しい体系の発足により、在宅医療の学問体系の整備や将来に向けた研究活動が益々発展し、科学として重要な分野に成長して行く事を目標としています。皆様方のご理解と益々のご努力、ご協力をお願いし、巻頭の言葉とさせていただきます。